

Cisco Unified Attendant Console 10.5.x スタンダード エディションの設定

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[設定](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco Unified Attendant Console 10.5.x スタンダード エディションの基本的な設定手順を説明します。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco Unified Attendant Console 10.5.1.1543
- Cisco Unified Communications Manager 8.6.2.23900-10
- Microsoft Windows 7 Professional Edition (64 ビット)

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

設定

次の手順を実行します。

1. ログインおよび話中ランプ フィールド (BLF) でオペレータによって参照されるデバイスを制御するアプリケーション ユーザを必ず作成してください。注: このアプリケーション ユーザを実際のオペレータと混同しないでください。このアプリケーション ユーザは、オペレータが必要に応じてデバイス情報/制御を得るための、電話サービス プロバイダー (TSP) によるリソースとして機能します。この図は、このアプリケーションの制御対象デバイス セクションに含まれるデバイスを示しています。これには、「ログイン」および BLF でオペレータが使用するデバイスも含まれていることに注意してください。また、次の役割をこのアプリケーション ユーザに含める必要があります。標準 AXL API アクセス
Standard CTI Allow Calling Number Modification
Standard CTI Allow Call Park
Monitoring
Standard CTI Allow Control of All Devices
Standard CTI Allow Reception of SRTP
Key Material
Standard CTI Enabled
このユーザは、Cisco TAPI クライアント (TSP) を介した CallManager へのログインで参照されます。このユーザの制御対象デバイス セクションに、必要なすべてのデバイスを必ず入力してください。これを行わない場合、Cisco Unified Attendant Console 標準クライアントへのログインが失敗します。
2. インストール ファイルをダブルクリックします。
3. ステップ 1 でプロビジョニングされたアプリケーション ユーザのユーザ ID とパスワードを入力します。[Next] をクリックします。
4. ドロップダウン リストから、適切な言語を選択します。[Next] をクリックします。
5. Cisco プレゼンス サーバの詳細を入力します。[Next] をクリックします。注: Cisco Presence 管理者 ID とパスワードを入力する必要がないため、このログイン画面を Jabber ログイン画面のように扱ってください。代わりに、Cisco Unified Attendant Console 標準ソフトウェアを管理するオペレータの UID とパスワードを入力します。Cisco Presence/IM および Presence ノードから適切な Presence 情報を取得できるようにするには、このユーザが IM および Presence を使用でき、ライセンス交付されている必要があります。
6. 適切なインストール場所を選択します。[Next] をクリックします。
7. これまでのステップで入力した情報を確認します。すべてが適切に表示されている場合は、[Next] をクリックしてインストールを完了します。
8. このインストールが完了したら Windows PC を再起動します。PC の再起動を開始するには [Finish] をクリックします。
9. PC が再起動して立ち上がった後、[Cisco Unified Attendant Console standard 10.5] アイコンをダブルクリックしてソフトウェアを起動します。オペレータの内線番号を入力します。この例では、オペレータ UID が「nupurk」、内線は「1008」です。内線を入力するとすぐに、TSP がデバイス情報を解決します。この情報は、(ステップ 1 で設定した) このデバイスを制御するために TSP が使用するアプリケーション ユーザ ID だけです。デバイス情報が見つかった後、必要な操作は、単にデバイスをクリックすることだけです。自動的にログインが発生します。注: 赤い警告は、予期される標準的な表示です。これは、正しい内線番号を選択するようオペレータを促すための表示です。

確認

設定セクションの手順に従って正常に操作した場合、このログイン画面が表示されます。CallManager との同期が完了するとすぐに、Presence 情報がディレクトリに入って表示されます。ディレクトリ同期プロセスは通常、非常に高速です。

トラブルシューティング

現在のところ、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。

関連情報

- [CUAC 10.5 Standard Edition 管理ガイド](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)